

会議議事録

会議の名称	第1回 新居浜市SDGs推進プラットフォーム幹事会
開催日時	令和5年5月23日(火) 15:00~17:15
開催場所	新居浜市消防防災合同庁舎 5階 災害対策室
出席者氏名	委員7名(飯尾委員、小林委員、近藤委員、竹内委員、檀委員、永易委員、松田委員)
欠席者氏名	なし
事務局	新居浜市企画部総合政策課
会議次第	<p>開 会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 市長挨拶 2 委員委嘱状交付 3 委員自己紹介 4 幹事長選出 <p>議 事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幹事会の役割・今後のスケジュールについて 2 その他 <p>閉 会</p>
配付資料	・資料 第1回新居浜市SDGs推進プラットフォーム幹事会資料

議事内容（要旨）	
開会(事務局)	<p>定刻がまいりましたので、ただ今から「第1回新居浜市SDGs推進プラットフォーム幹事会」を開催いたします。</p> <p>本幹事会は、「新居浜市SDGs推進プラットフォーム設置要綱」に基づき、プラットフォームの活動内容等を審議するため、設置されるものです。</p> <p>また、本幹事会につきましては、「審議会等の公開に関する要綱」に基づきまして、全部公開となっておりますこと、議事録等につきましては後日、新居浜市のホームページにおいて公表されますこと、あらかじめご了解くださいますようお願い申し上げます。</p> <p>本日は委員の皆様方にはご多忙の中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。私は総合政策課の相坂と申します。</p> <p>幹事会の幹事長が決まるまでの間、司会進行を務めさせていただきます。</p> <p>よろしく願いいたします。それでは、開会に当たりまして、石川市長から皆さまにご挨拶を申し上げます。</p>
石川市長	<p>市長の石川でございます。第1回新居浜市SDGs推進プラットフォーム幹事会の開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>皆様におかれましては、大変お忙しい中、今年度設立する「新居浜市SDGs推進プラットフォーム」の幹事会委員をお引き受けいただきましたことに対しまして、心から御礼を申し上げます。</p> <p>さて、皆様ご承知の通り、本市は、別子銅山の開坑をきっかけに発展したまちであり、住友グループの事業拡大の中で、「煙害問題の克服」や「大規模な植林事業の実施」など、100年以上前から様々な環境対策に取り組んできた歴史がございます。</p> <p>こうした地域性を持つ本市であるからこそ、SDGsの考え方、理念は、自然と地域の企業や、市民の皆様を受け入れられるものであると考えております。</p> <p>こうした歴史を踏まえ、本市においては、近年、SDGsへの貢献を意識しながら、持続可能なまちづくりを進めており、「経済」、「環境」、「社会」、三則面において、SDGsの推進につながる事業の充実、強化を図ってまいりましたが、こうした取組が評価され、昨年5月には、国から「SDGs未来都市」としての選定を受けたところでございます。</p> <p>本市といたしましては、この選定を一つの契機として、SDGsの目標年である2030年に向けて、より一層、市内におけるSDGs推進の機運を高め、市内の企業や団体、教育機関等の情報共有・連携を強化していきたいと考えており、今年度から「新居浜市SDGs推進プラットフォーム」を設立し、本格的な活動を開始することといたしました。</p> <p>本日、ここにお集まりいただきました委員の皆様は、日ごろから、教育機関や企業等のフィールドにおいて、SDGs推進に向けた取組を実践されており、ご活躍されている方々であると認識をいたしております。</p> <p>本日から、この幹事会の場におきまして、プラットフォームの具体的な運営方法など、様々な事項について、委員の皆様にご意見を賜りながら、取組を進めてまいりたいと考えておりますので、委員の皆様におかれましては、各分野で培われたSDGsに関する知見や人脈、情報発信力を、本市にご提供いただきつつ、率直で、忌憚のないご意見を頂戴いたしますようお願い申し上げます。</p> <p>今年度から2年間の任期となりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>次に、幹事会委員の皆様にご挨拶の交付を行わせていただきます。委員を代表しまして、飯尾様に市長より委嘱状を交付させていただきます。飯尾様、前の方をお願いいたします。</p> <p>(委嘱状交付)</p>

	<p>なお、その他の委員の皆様の委嘱状につきましては、あらかじめ皆さまのお手元にお配りさせていただいております。簡略となりますが、これを持ちまして交付に代えさせていただきます。委嘱状のご確認をお願いいたします。</p> <p>市長は、他の用務の関係で、ここで退席させていただきます。 (市長退席)</p> <p>次に、委員の皆さまに自己紹介をお願いしたいと思います。 まず、氏名、所属についてご紹介いただき、加えて、普段の活動等について、簡単にご紹介いただければと存じます。 お手元の委員名簿順に、飯尾委員様からお願いいたします。</p>
飯尾委員	<p>みなさんこんにちは。私は、新居浜機械産業協同組合青年部会長の飯尾電機の飯尾と申します。もう少しで任期が終了します。この幹事会は2年間の任期ですが、どうぞよろしくをお願いいたします。私、本社は新居浜ですが、工場は西条に移ってまして、設立でいうと3代目になります。さきほど石川市長からお話もありましたが、新居浜市は住友の企業城下町で、弊社でも、住友各社から様々な仕事をいただいております。大きな柱のひとつは、発電所等の電動機の保全、古いものをリニューアルするような仕事を受注しています。私自身、そこまでSDGsに詳しくはないのですが、製造業ならではの視点から、少しでもお役にたてるよう努めてまいりますのでよろしくをお願いいたします。</p>
小林委員	<p>愛媛大学の小林でございます。よろしくをお願いいたします。 さきほど名刺交換をさせていただきましたが私の名刺には肩書がたくさん書かれております。このように肩書が増えたのも、時代の流れがございまして、私の方は、2006年から竹内委員と時を同じくして、ESDの活動を続けてまいりました。新居浜市の方とも、ESDの関係で、ずっと連携をさせていただいております。それを受けまして、SDGsの流れがありまして、愛媛大学は昔から、環境問題や地域社会ということに関して、いろいろな研究をしてきたという特色がございまして。それでいて、法人化になってから、地域に立脚する大学ということで、より地域を意識したいろいろな活動を展開するというのを大学の使命として、人事や、研究教育で展開してきた中で、今回はおそらく、学長直属のSDGs推進室の副室長としての小林修として呼んでいただけたのかなと思っています。</p> <p>私は、もともとは樹木の年輪を使って、昔の大気汚染であるとか、地球温暖化とか、そういった歴史を紐解く研究をしてきた人間でございます。 それを広く、環境教育の教材として、気候変動はこうやって変わってきたんだよと、いろいろな人たちに物語を語るような研究をしてきて、一部は、視覚障がい者の皆様の教材作りとか、そういった形にもつながってきています。 実は、もともとは農学部にいたのですが、帰国子女ということもあり、大学の中で英語を話す人材として、国際連携推進機構へ異動になりまして、これも竹内委員さんの縁で、モザンビークと関わるようになりまして、それが一つのきっかけとなりまして、私の人事も大きく変わってまいりました。</p> <p>ここ最近では、台湾、インドネシアと行き来ができるようになりまして、このコロナ3年間の間に、日本が再スタートに出遅れているなど感じています。 SDGsということ意識していると、おそらくそういった流れが、リアルタイムでとらえられるようになっていまして、いわゆるこの新居浜市におけるSDGsの活動も、社会貢献ということにとどめずに、自らが成長・発展していくというか、そういう力と呼び込むつもりで、広く市民の皆さんにもわかっただけのよ</p>

	<p>うな活動が、このプラットフォームで展開できればいいなと思っています。 この素晴らしい環境の新居浜市で、人々が生き生きと持続可能な暮らしができる という市をイメージして作っていったら、少しでも力になればいいなと思っています ので、よろしくお願ひいたします。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>近藤智佳と申します。 今回はいはま女性ネットワーク顧問という肩書で参加させていただいており ます。男女共同参画の分野からお話ができればと思っています。 本業は実寸法師というソフトウェアの開発・販売の会社で、何でも屋をやってお り、夫を助ける、自称ナイスな社長夫人でございます。それと同時にワーク・ライ フ・バランスを今後やっていかないといけないということで、コンサルタントの資 格をとって、2010年から弊社の中に、ワーク・ライフ・バランス推進室を新設 し、社内はもちろんですが、社外いろいろなところへ行って、お話をさせていた だいております。 あとは、いろいろなことをやっていて市役所によく来るのですが、市役所の職員 の方に、「どこの課に配属ですか」と冗談で聞かれるほど、市役所関係の委員など を多く努めさせていただいております。 プライベートとしては、県内ジュニアオーケストラがあるんですが、その運営を手 伝っています。子どもたちと接する機会が多いからというわけではないのですが、 教育委員にもなっております、いろいろなことで、SDGs、ESDの活動につ いては、勉強したり、現場で取組を聞いたりしております。 また、子どもが高校生ということで、まさに新居浜市のESD、SDGsに関する 教育を受けてきた子どもと一緒に生活をしており、親もそれを学んでいるという状 況です。私にできることは何かあるのかなと思うのですが、自由に発言してくださ いと事務局から言ってもらっていますので、自由に発言させていただけたらと思 います。 どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
<p>竹内委員</p>	<p>えひめグローバルネットワークの代表理事をしております竹内です。 皆さんこんにちは。えひめグローバルネットワークは活動を始めて、今年の4月で 25周年を迎えました。NPO法ができた当初から、市民活動に力を入れてきま したが、その活動も四半世紀を数えました。 この間、子育て、また、モザンビークとの出会いから、本当にいろいろな人を巻き 込んで活動をしてきました。 小林修先生からも発言がありましたが、愛媛大学においても、今やモザンビークは 一つの看板になっているかと思ひます。 今年5月の岸田首相のアフリカ訪問の際も、訪問したアフリカ4か国のなかのひと つとしてモザンビークが入っています。 モザンビークは、世界の中でも最貧国の一つであり、世界中で下から数えて10位 以内という状態が20年以上続いています、そういう国で、持続可能な開発がき ちんとできるかどうか、見守っていききたいなと思っています。 その当時の阿部教育長から、次の関教育長、そして今の高橋教育長へと歴代の教育 長と一緒にいろいろと関わらせていただきました。 また、新居浜東高校生が1年生の時からボランティアに来ていて、現在は、えひめ グローバルネットワークの理事になっております。 10年以上の付き合いとなりました。そして、その彼がいまや、新居浜グローバル ネットワークを立ち上げて、モザンビーク支援を含め、いろんな活動を新居浜でや りたいと頑張っている、私はここの席の次のバトンは彼に引継ぎたいと思 っています。そういう若者を育てていきたいと思っているのですが、この活動は現在四 国に広がっております。</p>

	<p>(参考資料配付)</p> <p>ローカルSDGs 四国というものを3年前に立ち上げました。今現在180以上の企業さん、団体が入会しています。その中には、愛媛大学や新居浜市、新居浜市教育委員会も含まれます。ぜひ、配付させていただいた資料も参考にいただければと思います。</p> <p>環境省の四国パートナーシップオフィス、四国ESDセンター、外務省の仕事でいうとNGO相談員も20年続けてやっております。</p> <p>環境省の事業は17年目となりました。国際と環境と教育に関しては、横へ横へとネットワークを広げながら展開をしております。</p> <p>ESDが軸になっているのですが、SDGsの前のMDGsからやっており、2030年まで、30年間ずっと関わり続けるのかなと思っております。ぜひよろしくお願いいたします。</p>
檀委員	<p>松山大学の檀と申します。専門は数学をやっているのですが、なかなか学生が数学を勉強してくれないので、アプリを作ったり、プログラミングなどもやっていますが、映像制作を去年くらいから取り組むようになりました。</p> <p>私の妻が四国中央市出身ということもありまして、松山、四国中央市間をよく高速道路で移動するのですが、実は新居浜は通過するだけで終わることが多かったのですが、昨年11月にゼミ生20人くらいをバスツアーで新居浜に連れてきてまして、新居浜市出身のゼミ生が選んでくれた新居浜市のいいところ、スポットを巡りました。11月は紅葉がきれいなシーズンで、新居浜の魅力がたくさんあって、1回ではとてもすべて見ることはできないと思いました。また、ちょくちょく学生を連れ、新居浜に来たいな、面白いことをしながら巡りたいなと思いました。また、SDGsという観点もそうですが、若者たちを巻き込んでやっていくための仕掛けづくりもやっていきたいと思っております。2年間よろしくお願いいたします。</p>
永易委員	<p>みなさん、こんにちは。私、新居浜商工会議所青年部に所属しておりまして、株式会社イメージテックという会社に勤務しております。さきほど委員の皆さんとご挨拶させていただいて、私がここに参加していいのかというのが率直な感想です。</p> <p>商工会議所青年部では、過去2年間、クリーンビーチ活動、市内の海岸の清掃活動であったり、障がい者支援活動などを実施しております。</p> <p>今年度に関しまして、私が、商工会議所青年部のSDGs推進委員会の委員長を務めておりまして、市内の清掃活動を実施する予定となっております、そのほかにも、SDGs関連のフリーマーケットも開催する予定で、現在、商工会議所メンバーで準備の方を進めております。</p> <p>私自身、SDGsに関しては、まだ知識不足で、わからないことも多々あるかと思いますが、力になれるように勉強していきたいと考えております。また、私の方からも情報を発信していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
松田委員	<p>こんにちは。新居浜高専機械工学科に所属しております、松田雄二と申します。よろしくお願いいたします。機械工学科の中では、流体工学、空気の流れ、水の流れを扱っているところで、高専教育ではほとんど、水と空気なのですが、船はなぜ浮かびますか、飛行機はなぜ飛びますかというところから、勉強に勤しんでおります。事業といたしましては、本校、5学科あるのですが、1教員として、唯一、5学科全てを回れる教科がありまして、それが「環境と人間」という教科になります。環境とはなんぞや、人間とはなんぞや、ということで、いろんなテーマを出し合って、機械工学科からの切り口、メスの入れ方を展開していくわけですがけれども、新居浜市がSDGsに関しこういった取組をされるということで、「環境と人間」をやっているメンバーから、委員として行ってこいという話になりまして、ここにいるわけでございます。</p>

	<p>私自身としては、ここに直接は関りがありませんが、ものづくり活動で、ガソリン1リットルで、何キロ走れますかというコンテストに、機械工学科のプロジェクトで参加しております。</p> <p>要するに、燃費が稼げると二酸化炭素の排出も減らすことができるということで、SDGsにつながると考えておりますので、ものづくりとSDGs、そういったところにうまく関連付けて、展開できたらなと思っています。</p> <p>それと、新居浜高専は毎年200人ずつ卒業生を輩出しているが、なかなか市内の企業さんにお世話になっていないという現状がございます。</p> <p>関西方面に出ていく学生がほとんどであるが、やはり、若者にとって魅力のあるまちづくり、外に出ても、将来的には帰ってくるができるまちづくりがSDGsから発信できればと考えております。いろいろと勉強させていただきたいと考えております。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>事務局のメンバー紹介</p> <p>(亀井企画部長、松原総合政策課長、相坂総合政策課副課長、宗村総合政策課係長)</p>
事務局	<p>続きまして、幹事長を選出したいと存じます。新居浜市SDGs推進プラットフォーム設置要綱第6条第5項に、「幹事会に、幹事長を1名置く。」とされております。どなたか、幹事長の立候補や推薦はございませんか。</p> <p><u>(なし)</u></p> <p>ご意見がないようでしたら、事務局案をお示しさせていただきます。委員の皆様にご承認いただくことでよろしいでしょうか？</p> <p><u>(異議なし)</u></p> <p>それでは、事務局案といたしましては、幹事長を愛媛大学の小林委員様にお願いしたいと思います。皆様いかがでしょうか。</p> <p><u>(賛同)</u></p> <p>それでは、小林委員様、幹事長の席にお移りください。</p> <p><u>(小林委員席移動)</u></p> <p>小林幹事長からご挨拶をいただきたいと思っております</p>
小林幹事長	<p>皆様、改めまして、愛媛大学SDGs推進室副室長の小林でございます。</p> <p>この度は、新居浜市SDGs推進プラットフォーム幹事長にご推薦いただき、誠に恐縮でございます。私は、立場上、幹事長をさせていただきますけれども、私の力では不十分ですので、さきほど市長の挨拶にもありましたが、皆さんから、お知恵やネットワーク、経験などをご提供いただき、私はそれをファシリテートするという役割で、2年間この席に座らせていただき、務めさせていただければと思っております。</p> <p>さきほど、檀先生から新居浜市との関りについて、お話をいただきましたが、私は愛媛県とは何の縁もゆかりもございません。妻と私は、千葉と群馬でございます。1997年に縁があつて、愛媛大学に着任しましたけれども、何だかんだいって、愛媛県というのは住みやすいと思っております。</p> <p>もともと高校までは、関東近辺でプラプラしていたのですが、中央線の人混みが嫌になりまして、大学は北海道へ出て、10年間、ヒグマ研究グループというところに所属しまして、山登りをしながらいろんな活動をしておりました。</p> <p>そういった観点でいうと、愛媛県は、都市型の生活と、環境に寄り添った暮らしがバランスよくできる地域だなと感じております。松山市は松山市の良さがあるので</p>

	<p>すが、新居浜市におかれましては、さきほど市長の話にもありましたが、別子銅山を背景とした歴史、しっかりとした産業基盤があり、様々な問題がありながらも、それを精力的に解決してきた歴史的な裏付けもある地域だと思っております。</p> <p>過去の大変だったことを解決してきた歴史は、未来の、ほかの地域にとってもいいモデルになりますし、解決していこうという姿勢自体が説得力を持ち、非常に大切だと思っています。</p> <p>こういったことと言えば、新居浜市のこのプラットフォームの活動を、足元の持続可能な社会づくりに活かすということは当然のことですが、過去の実績に裏打ちされた説得力を持って、周辺地域、世界に新居浜市の取組が広がっていくようなことを意識して、みなさんと一緒に活動を盛り上げていけたらと思っています。</p> <p>こういふと、そこまではと思われるかもしれませんが、今、世界は身近になっています。学生も海外で友人を作って、ずっとLINEでやり取りをしています。</p> <p>ですので、委員の皆さん、それぞれがこの新居浜市での活動に自信をもって、小さなものをたくさん集めて、束ねて、それを大きなうねりにしていくような方向性で、この幹事会が、プラットフォームの活動を盛り上げていけたらと思っています。以上私からの挨拶とさせていただきます。皆様よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>小林先生、ありがとうございました。それでは、ここからの議事につきましては、小林幹事長にお願いしたいと存じます。幹事長、よろしくお願いいたします。</p>
小林幹事長	<p>議事に入ります前に、「新居浜市SDG s 推進プラットフォーム設置要綱」第6条第6項で「幹事長は、幹事会委員のうちから副幹事長を指名することができる。」となっておりますので、私の方から、副幹事長として松山大学の檀先生を指名させていただければと思います。檀先生、お願いできますでしょうか。</p>
檀副幹事長	<p>承知いたしました。</p>
小林幹事長	<p>それでは、檀委員を副幹事長に指名させていただきます。私が会議に参加できない際には、副幹事長に職務を代理していただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。委員の皆様のお手元資料に委員名簿がございますので、そちらの方に、「幹事長」、「副幹事長」の記入をお願いいたします。</p> <p>それでは、議事を進めてまいります。一つ目の議題である「5 幹事会の役割・今後のスケジュールについて」事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>資料に基づき説明</p>
小林委員長	<p>事務局からの説明について、ご意見、ご質問はございませんか。</p> <p>私から、質問させていただくと、資料の作り込みからご相談を受けておりましたが、私は、松山市の幹事会の方も、幹事長を引き受けさせていただいています。</p> <p>分科会の立ち上がりについては、松山市の方でも、トントン拍子に進んできたわけではありません。原因は何かというのは、いろいろと考えられますが、一つは何となく、気安く立ち上げられない雰囲気があると思います。逆に、松山市のうまくいっている例でいうと、事務局主導で、先に分科会をいくつか立ち上げて、分科会とはこういうものですよと見せていた経緯がありました。</p> <p>さきほど、事務局から、説明のあった参考資料「SDG s 未来都市の申請資料」の中に、経済、環境、社会、三分野の取組、そして、未来都市選定後に、プラットフォームを立ち上げて、さらに連携を促進するという資料がありましたが、国の審査を受け、選定されたからには、今後、どの程度できたのかということ国に報告しないとイケないと思います。</p>

	<p>資料では、経済、環境、社会の新居浜市としての課題が明示されています。そこで一つ提案ですが、資料では、9月には分科会設置の提案を受けるという想定になっていますが、事務局の方で、分科会の案として、新居浜市が認識している三分野の課題について、その課題解決に向けた分科会の提案を募集しますということで、会員に提案をいただくという募集の仕方はあるかなと思いました。</p> <p>それとは別に、それぞれの会員が提案する分科会案も募集し、届いた案はいくつかに分類できると思うので、それが経済の側面なのか、環境の側面なのか、社会の側面なのか整理をして、グループ化できるのであれば、9月には、こういう提案が多かったので、こういう分科会をまずは立ちげますということではできると思います。そして、来年には10程度の分科会の立ち上げを目指していけばいいのかなと思いました。</p> <p>あとは、今回ご出席の委員さんには企業の方もいらっしゃるのですが、松山市の事例でいうと、企業の同じ業種の方が集まって、何社かで立ち上げた分科会があったとして、競合他社と一緒に集まって仕事をする難しさもあるようです。そういうことは避けられるのであれば避けた方がよいのですが、そういう状態になった場合に、それをどう打開していくのか、考えるのも幹事会のできるることかなと思っています。</p> <p>とうことで、分科会が資料に示されていますが、最初は、事務局側から提案していくということも必要かなと思いました。すでに42の団体・企業からの入会申し込みがあったということですので、そういうやり方もいいのではと思いました。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。小林幹事長からいただいたご意見を踏まえ、次回の9月の幹事会までには、事務局が考える分科会のテーマ案をお示ししたいと思います。そういうものがあつた方が、手が上がりやすいのではないかとご意見ですよね。</p>
小林幹事長	<p>そうです。9月までにとということではなくて、もう少し前に、事務局としてテーマ案を提示して、それを受けて、会員団体・企業さんから提案をもらう。それを9月の幹事会までに進めたいというイメージです。</p> <p>10月にはたちまち、2回目の全体会を予定していますよね。そこで、分科会の設置を報告するのであれば、そういうスケジュールが望ましいと思います。</p>
事務局	<p>わかりました。この幹事会については、今回のように対面で、リアルに集まっていたり開催することもあるのですが、書面開催なども柔軟にさせていただきたいと考えておりますので、そのあたりもご相談させていただきながら、進めていきたいと思っています。</p> <p>あと、今、42の団体・企業に入会の申し込みをいただいておりますが、入会申込にあたって、説明ができるところには、分科会の仕組みなども説明したうえで、入会の申し込みをいただいております。プロジェクトの大・小はありますが、例えば、SDGsの普及啓発を目的とした異業種が集まったイベントの開催を提案したいといった話も、ポツポツお聞きしているので、そういったところに、まず分科会の提案をいただくと、他の団体・企業も分科会のイメージをご理解いただきやすいのかなと思っています。</p> <p>ですので、10月の第2回全体会の時には、事務局がテーマを設定した分科会案に合わせて、個別に提案のあつた分科会案が一つ、二つある状態を目指したいと思っています。</p>

小林幹事長	<p>そういったスケジュールの目標で進めるといいのかなと思います。それに関連して、何かご意見等ありますでしょうか。</p>
竹内委員	<p>私の方は、さきほど、ローカルSDGs 四国の会報を配付させていただいたのですが、その中に、ローカルSDGs 四国としての分科会の活動が記載されております。分科会1「四国ESDチーム」、分科会2「地域エネルギー分科会」、分科会3「多文化共生型の減災社会づくり分科会」、分科会4「SDGs 事業促進検討分科会」、分科会5「南海トラフ地震香川液状化対策コンソーシアム」、分科会6「四国の奥山自然再生協議会準備会」の6つの分科会です。</p> <p>私達も、ローカルSDGs 四国を立ち上げる時に、分科会をどうしようと協議しました。ただただ、「分科会に入ってください!」では、何のメリットもないということで、事務局として分科会を提案しようとなりました。</p> <p>ローカルSDGs 四国は、環境省四国事務所と四国EPO受託団体のえひめグローバルネットワークが、四国EPOを事務局として、一緒にやっている形をとっているのですが、最初に分科会1「四国ESDチーム」を立ち上げました。</p> <p>それは、私たちがもともとESDが得意分野であったこともあり、人材育成という分野は、たくさんの方の関りがありますので、そのつながりを活かして、四国パーチャル大学やESDツアー、さらに今年は、四国ESDフォーラム2023も開催いたしました。</p> <p>四国ESDフォーラムについては、今年度、来年度も新居浜市で一緒にやりましようとなっているので、それも一つ分科会の位置づけで、新居浜市の取組にはESDが強みですすでに入っているのです、何の無理もなく実施できるのではないかと思いますので、ぜひご検討いただければと思います。</p> <p>分科会2の「地域エネルギー分科会」においては、さきほど、競合他社が同じ分科会に入った場合、うまく進まないケースもあるというお話がありましたが、私たちがその問題をクリアするために狙ったのは、中小企業家同友会の存在です。大きな企業さんは独自でSDGsにどんどん取り組まれていると思います。商工会議所さんが入ると零細規模まで入るので、私たちが調整するのは難しいだろうと考えました。ということで、中小企業家同友会の理念を大事にしている、企業さんに入っていただくことを狙って、四国4県の同友会さんに入らせていただきました。その中の「環境経営委員会」にアプローチして、地域エネルギーの分科会を立ち上げてもらっています。</p> <p>ですので、ここは経済とつながる同友会というひとつのかたまりと繋がっている関係で、四国四県の関係者が集まる、またそれが、全国の中小企業家同友会に発信ができるという仕組みになっています。</p> <p>そして3番は、自分たち、えひめグローバルネットワークも何かしなくてはということもありますし、LS四国の共同副代表のところに、JICA四国さんに入らせていただいているのですが、私どものNPOでは、国際と環境と教育が軸になっており、SDGsは世界みんなのゴールなので、国際の視点を入れようということで、JICAさんと一緒にやっている事業「多文化共生型の減災社会づくり」を分科会として位置付けました。</p> <p>出口プランとしては、多文化共生のネットワークづくりにいきます。もう一つは、分科会5「南海トラフ地震香川液状化対策コンソーシアム」の方といずれ重なって</p>

	<p>いくであろうと考えており、減災・防災のチームに改編する必要があるだろうと考えています。</p> <p>分科会4は金融機関と一緒に、愛媛銀行さんが中心となってESGを進めるということもあって、分科会5は、香川県のある会社から提案があり、自主的に立ち上がった分科会になります。</p> <p>分科会6は昨年立ち上がったのですが、この分科会も事務局の特定非営利活動法人由良野の森さんが非常に熱心で、自立分散型で、やる気のあるところが動いてくれるので、そこをLS四国の事務局が応援していくという形で、仲間づくりをしています。</p> <p>今後の新居浜のSDGsのプラットフォームの中で、分科会をつくるときの参考にさせていただければ幸いです。</p>
<p>小林幹事長</p>	<p>竹内委員ありがとうございました。四国全体の動きの中での分科会ということで、これをひとつ参考にすると、四国全体への波及効果というところも期待できると思いました。</p> <p>一方で、例えば、分科会5などについては、かなり具体的な提案になっていますが、新居浜市で立ち上げる分科会は、タイトルだけを見て、活動内容がわかるような、具体的な分科会をいくつも立ち上げていけばいいのかなと思っています。それが将来的に、LS四国の活動と連動・連携していくことになればいいのかなと思いました。</p> <p>新居浜市として、来年度立ち上げを目指す分科会の数は10ですよね。最初から大きいくりにすると、そんなに多くの分科会が立ち上がっていかないと思います。あとは、一つの分科会の中に、参画する企業や団体の数が、あまりに大きくなると意見がまとまらなくなるという側面もあると思いますので、小規模の分科会で、小回りをきかせて、いろいろなことを楽しくやっていくということも大切かと思います。</p> <p>いずれにしても、LS四国の分科会の事例を参考資料として提供して、新居浜市の分科会の案を検討・提案してくださいというのもいいかなと思いました。</p> <p>あとは、すでに立ち上がっている松山市の分科会の事例なども参考になると思います。新居浜市のプラットフォームの会員に参考資料として配付してもいいのかなと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>竹内委員さん、ご意見ありがとうございます。行政主導でテーマを設定して、分科会を立ち上げる際に、LS四国の分科会の事例は非常に参考になると思います。大きいテーマで、わかりやすいキーワードを分科会名にするというところは非常に参考になりました。</p> <p>あと、こういう大きいテーマの分科会に加えて、小グループで、気軽に提案できる分科会も必要であると考えていますので、2本立てで、分科会のテーマを考えていきたいと思っています。</p> <p>ある程度大きなテーマを設定して、立ち上げる行政主導の分科会と、小規模なグループがイベントやちょっとしたプロジェクトを立ち上げたい場合に設置する分科会の両輪で行きたいとイメージしています。</p>
<p>小林幹事長</p>	<p>この新居浜市のプラットフォームでは、会員企業や幹事会委員が情報を共有するうえでSNSやサービスを導入する予定はありますか。</p>

事務局	現時点では、ポータルサイトなどの導入予定はありません。そこは、会員団体がある程度増えてきたときに、情報共有を効果的に行うための専用サイト、サービスがあった方がいいとなった時に検討したいと考えております。 当面は、新居浜市のホームページの中に、専用のページを設けて、会員企業の情報を発信していく予定です。
小林幹事長	わかりました。ちなみに松山市の場合は、サイボウズの kintone（キントーン）を導入しています。サイトやサービスによって、費用面や操作性において、メリット・デメリットがあると思うので、無料で使用できる SNS なども含め、今後必要性を検討していただければと思います。LINEWORKS（ラインワークス）なども検討してみてくださいと思います。
事務局	ありがとうございます。入会状況も見ながら、調査・検討していきます。
小林幹事長	分科会の活動などにかかる費用について、経済的支援についてはどのように考えていますか。イベントなどの活動をするにも経費が発生する。それをプラットフォームから支援する予定があるのかどうか、もしくは企画者の負担になるのでしょうか。
事務局	そのあたりは、現時点では未定です。分科会の提案が具体的に出てきたタイミングで、その内容を踏まえて検討、決定したいと考えております。 すでにある、財政支援のひとつの方法としては、公募の補助制度という仕組みがあります。事業費全額を補助することはできないのですが、費用の 1/2、上限 100 万円の補助が可能となっています。
小林幹事長	了解しました。これも松山市の事例になりますが、幹事会が主導して活動する SDGs 関連の事業は、市が全額費用負担しています。 その場合、その分科会の企画・運営を幹事会と事務局が実施しています。会員団体の方から提案されるイベントやセミナーについては、原則、提案者の負担ということにしています。 これは、未来工房というまた別の名前になっていて、分科会を立ち上げるにしても、まずはお互いを知るとか、講師の方に話を伺うとか、分科会の立ち上げを目的とした未来工房という仕組みになっています。 ただ、それも少し著名な方を呼ぶとか、県外から旅費が必要だということになれば、事務局に相談していただいて、幹事会が承認すれば、予算的な支援も考えるということになっています。松山市も国の補助金は終了しましたが、現在は市の独自予算で実施しています。年間約 800 万円程度の予算であったと思います。予算的な支援がないと、イベントやセミナーは実施しにくいのかなと少し考えています。
飯尾委員	団体・企業を募集していく経緯で、現時点で、積極的に会員の勧誘活動は行っているのでしょうか。
事務局	ありがとうございます。機械産業協同組合さんに対しては、事務局にお願いして、3月に会員さんへ配付する資料等があるときに、このプラットフォームのチラシも一緒に配付していただきましたが、まだ各企業さんへ積極的に声をかけることはできていません。現在、機械産業協同組合加盟企業さんのなかでも十数社は、入会の申し込みをしていただいておりますが、それは、企業さんの方から自主的に申し込み

	<p>いただいた状況です。もう少し、アプローチをすれば、入会していただける企業さんもあると思うので、今後は、いろんな機会を利用して、声をかけていきたいと考えています。</p>
飯尾委員	<p>ありがとうございました。今、例として、機械産業協同組合をあげさせていただいたが、ほかにも、サービス業などにも声掛けをされているのでしょうか。</p>
事務局	<p>商工会議所の会員になっている事業所には、4月号の会報配付時に、チラシ折り込みをお願いしまして、プラットフォームの加入を呼びかけています。あとは、市の方で、女性活躍推進企業や、働き方改革推進企業、SDGs推進企業などに登録されている事業所には、個別にプラットフォームの加入の呼びかけをさせていただいています。</p> <p>ただ、それでも広く市内全体の企業等を網羅できているとは考えていないので、今後いろんな機会と呼びかけをしていきたいと考えています。</p> <p>委員の皆さんからも、こういうところに声をかけてはどうかという意見があれば、参考にさせていただきたい。</p>
小林幹事長	<p>ちなみに、機械産業協同組合に加盟している企業数は何社ほどですか。</p>
飯尾委員	<p>約80社です。近年、もともと新居浜市に所在する企業さんのなかで、市外に移転する事業所も増えてきたので、現在、組合の加入条件は、企業の所在地が東予一円にあることとしているが、会員が増加しているとは言い難い状況です。</p> <p>私も青年部に入って活動していますが、組合に入っていない企業で、意外と知られていない、しっかりした企業さんもたくさんあります。</p> <p>我々もそういった会社にアプローチしたいのですが、十分にできていない部分もあります。</p> <p>このプラットフォームの活動を通じて、幅広く情報共有・連携できればと思います。</p> <p>現在、入会申込のある企業・団体リストをみると、割と大手のしっかりした企業などが中心だと思いますが、ほかにも、SDGsに熱心な企業や団体はたくさんあると思います。</p>
小林幹事長	<p>今はどんな団体も、会員の減少に苦勞されていると思います。</p> <p>このプラットフォームも入ることによって、どういうメリットがあるのか、どういうおもしろいことがあるのかを「見える化」していくことが大切だと思います。</p> <p>今、こういう時代になりましたから、SDGsのことを全く知らないという人はほとんどいないと思います。だけど、自分とは関係ないと思っている人は多いと思います。</p> <p>そこを、皆さんに関係がありますよ。いろいろな団体や企業がつながれば、ビジネスにも結び付いていきますよ。という流れがでてくると、何か面白そうだなと思ってもらえると思います。</p> <p>我々としては、そういう視点で、会員募集、広報をしていくべきだと思います。</p>
近藤委員	<p>私は、このプラットフォームのチラシを、事務局から説明を受けながら聞いたのですが、正直、何も予備知識なく見たら、「会員になったら何をさせられるだろう？」と思うはずです。</p> <p>何ができるのかな？というよりは、何をさせられるだろう？事務処理をいっぱいしないといけないのでは？と思うのではないのでしょうか。</p> <p>プラットフォームの設立目的とか、活動イメージとか書いているのですが、会社にこういったチラシが送られてきて、一番最初にチラシを見るのは事務の人で、その人にはイメージがわからないだろうなと思います。</p> <p>弊社もこういうのをやってみたいとは思っているのですが、一つハードルと感ずるのは事</p>

	<p>務処理の問題です。</p> <p>どうしてかという、人が少ないので、会合がありますといっても、出せる人がいないという問題があります。</p> <p>コロナ禍で人を減らしている会社も多いと思いますので、そのあたりが難しい面があります。</p> <p>あと、最近の若い社員であれば、業務時間外の会合などになると、手当の問題などもあり、参加を要請しにくいという問題もあります。</p> <p>弊社としては、働き方改革をしっかりとやっている会社なので、なかなか難しい面もあります。</p> <p>ただ、新居浜市の男女共同参画の分野では、「にいほま女性ネットワーク」という団体があるのですが、そこは女性の若手リーダーを育てるということもあるのですが、異業種の団体・企業あるいは、いろいろな立場の個人などのゆるやかなネットワークをつくるということも目的に活動しています。</p> <p>そのなかで、メンバー同士いいものを吸収しよう、お互いに提供しよう、ロールモデルを見つけようという意識で活動しています。</p> <p>人生の悩みを身近な人には相談できないけれど、ちょっと距離を置いたほかのメンバーたちとは共有できる、そんな感じで活動をしています。</p> <p>ですので、このSDGsプラットフォームも何か、活動に参加すると、個人にもメリットがあるような場であれば、魅力的な場所になると思います。</p> <p>広報の仕方ですけれど、よくタウン誌などの観光地の紹介記事であると思いますが、女性の2人づれや家族などをモデルにして、車に乗って、マイントピアに行こう！などと書いていて、そんなイメージの写真が掲載されていて、マイントピアについたら、ここをめぐるってというように、活動・行動のイメージがわくような広報を見かけます。</p> <p>そういう具体的な活動が視覚的にイメージできる広報を心掛けるのがいいと思います。「何をさせられるのだろう？」から「何かワクワクすることができそう！」という方向へ転換できれば、いいのかなと思っています。</p>
小林幹事長	貴重なご意見をありがとうございます。事務局からコメントはありますか？
事務局	<p>ありがとうございます。確かに、プラットフォームの入会勧誘をするなかで、「どんなメリットがあるのですか？」と聞かれる会社もあります。近藤委員さんのご意見の通り、それが大半の企業や団体さんの率直な意見だと思います。</p> <p>こんな活動ができますよ。そして、ご負担もそんなにはないですというのが、このチラシ1枚では伝わらないというところがあると思いますので、広報の仕方も含めて、お声がけするときに、このチラシだけではなくて、何かイメージがわくような資料づくりについて検討したいと思います。</p>
小林幹事長	<p>もう少しキャッチーに、一緒にSDGsに寄り添った、持続可能な新居浜市について考えてみませんか？といったアプローチがよいと思います。</p> <p>あとは、松山市の例で行くと、今団体数が200を超えたと思うのですが、何かイベントなどをやりますよとあって、毎回出ていただける団体や企業さんは固定化しているという現状・課題もあります。</p> <p>その一方で、キントーンで、いろいろな団体さんが、お互いの取組や情報を共有しているので、そういった情報を得られるというところでの満足感もあるように思います。</p> <p>自分も何かSDGsの活動をしたいと思っても、今は何をしたいのか分からないという人にとっては、ほかのメンバーの活動を知ることができるというのはひとつのメリットだと思います。</p>
小林幹事長	永易委員さん、商工会議所の青年部に会員の年齢制限はあるのですか？

永易委員	40歳以下です。
小林幹事長	若手経営者の方が、こういったSDGsの活動に参加していただけるためにはどう いうアプローチをしたらよいと思いますか。
永易委員	商工会議所青年部には若手の経営者などがたくさん参加しているのですが、2年前 からSDGsに関する取組推進のため、委員会を立ち上げており、我々と同年代の 若い世代にもSDGsの取組が広がってきているのを実感しています。 実際、2年前から清掃活動などに取り組んでいますが、年々参加者数や賛同してい ただける企業数も増えてきています。 そういった意味でいうと、広報の部分では、わかりやすく、取り組みやすい内容を PRすることが大事だと思います。
小林幹事長	商工会議所の青年部は今何人在籍しているのですか。
永易委員	70～80名程度です。
小林幹事長	70社と考えてもいいのですか。
永易委員	そうですね。経営者や個人事業主、そして、企業の社員も在籍しています。
小林幹事長	こういう数字が大切かなと思っています。商工会議所青年部に所属している企業の 数だけ考えても、まだ、プラットフォームの入会団体数は増えていく余地はありそ うですね。
小林幹事長	このあと、松田委員にお伺いしたいのですが、さきほど新居浜高専の卒業生の話 で、大半が市外・県外へ出ていくという話がありましたが、愛媛大学も同様で、年 間入学定員は1,800人いますが、半分は県外に転出してしまいます。 さらにいうと大都市圏に流れている。ただ、県外からきた生徒が、そのまま卒業 後、県外に戻るのかというと、そこは入れ替わりがあります。 県外からきた生徒でも、在学中、地元との接点が多かった生徒は、自分の居場所を 愛媛県で探して、そのまま就職に結びつく傾向があります。 そういった点でいうと、新居浜高専の生徒が、すでにいろいろな活動で地域との連 携をしている、例えばモノづくりの分野で、機械産業協同組合の加盟企業さんなど と連携して、何か商品を作っていくとか、そういったことを通じて、それだっ たら、お世話になった企業さんに就職するという流れもあるのでしょうか。 松山市のSDGs推進プラットフォーム協議会は、高校が結構加盟していて、現時 点で具体的な動きにはなっていませんが、高校生が自主的にこんなイベントをやり ましたというのを、企業が何かできることがあったらしてあげようといった流れに なる可能性はあります。新居浜高専などの高校と、プラットフォームの連携につ いての可能性について、どのようにお考えでしょうか。
松田委員	秋口に、ものづくり関係のイベントがございまして、そういったところに参加させ ていただいたりはそののですが、主催者の名前はわかると思うのですが、企業さん が、こういったところの業種があつてというのは、なかなか見えてこないのが実際 のところなんです。 新居浜市は、住友グループのまちということで、その人気度は相当高いのです が、グループ会社さんには目が向きにくいところもあつたり、大人数を採用される ので、なかなか難しい部分はあります。 そこは当然、保護者とか、おじいちゃん、おばあちゃんまで迎ると、どこかで住友

	<p>グループにお世話になっておる市民が多いのですが、子どもの背中を押す立場の保護者が、どういう環境で、どういう未来像を描けるかがポイントのような気がします。</p> <p>一方で、いろいろな工場見学などはさせていただいており、今学んでいるエンジニアの技術がどういったところで、高専の活躍する場所がどういったところにあるのかというのは、いろいろな目線で見せていただいております。</p> <p>逆に少子化の影響もあって、外に出られない生徒もいます。どうしても新居浜で就職したいという生徒もいます。そういったところで、マッチングがうまくいけばなあという思いはあります。</p> <p>高専の就職でよくいわれることは、高専は5年間なのですが、5年間のうち、4年生の1月、2月のたった2か月間だけ、まじめに就職のことを考えて、ゴールデンウィーク頃に面接等をして、就職先が決まるという生徒が多いです。</p> <p>お陰様で求人者数は相当いただいているのですが、真剣度というか、高専でいう、キャリア教育の中で、入学する意味、1年生の学ぶ意味、2年生の学ぶ意味、3年生、4年生の学ぶ意味ということ、勉強の中に刷り込んでいかないといけないのかなということで、それを実現する場所が新居浜にあるとか、南予からきている学生もいるので、就職先として、新居浜にいい場所があったとか、そういうところにつなげていきたいと考えています。</p>
<p>小林幹事長</p>	<p>ありがとうございます。私自身は、教育機関に関わるものとするれば、若者の地元理解、地元で活躍できる場を見つけられるかどうか、その機会づくりというのは、教育者側としては非常に大切だと思っていて、このプラットフォームの場においても、シーズというか、若い人たちが欲しいと言っている地元の企業や団体があって、その存在を知らないだけで、結構、市外・県外に出て行ってしまうこともあると思います。</p> <p>ですので、ぜひ、分科会等の仕組みを使って、若い人たちと新居浜の会員団体さんとの接点をたくさん作っていくことが重要なと思います。新居浜高専の卒業生200人がすべて地元就職というのは無理だと思いますが。</p> <p>愛媛大学でも、留学生の就職支援プログラムというもので、留学生の就職をサポートしています。</p> <p>留学生の中には、愛媛大学で4年間勉強したので、本当は愛媛で就職したいのだけれども、自分の専門を活かせる企業がないとか、企業を知らないという理由で県外に就職してしまう生徒もいます。</p> <p>これは接点がないだけ、知らないだけなんです。愛媛県は、製造業から、サービス業から、一次産業から、幅広い業種がそろっている県だと思っています。ですので、探せば望む業種、会社は愛媛県内にもあると思っています。ですので、そういうマッチングの機会の提供というのは非常に重要だと思っています。</p> <p>また、既存の会社に就職するというの一般的なと思いますが、海外などでは、学生発ベンチャーというのがたくさん出てきていて、それは失敗することも非常に多いのですが、例えばインドネシアなどでは、失敗が許される文化というのがあります。</p> <p>スモールビジネスでそれを立ち上げて、軌道に乗ったら、規模が大きくなるチャンスもあるということで、何か分科会のプラットフォームの中で、新居浜高専だけでなく、地元の高校や中学校にも参画してもらって、学生が思っているものを企業が持っている機械や技術などを提供いただいて、実際形にしてみるというのは面白いと思います。</p> <p>うまくいけば、企業がそのアイデア面白いねと、ぜひ製品化しよう！となれば、本当に面白いと思います。</p> <p>もし、そうなれば、それに関わった生徒は、その後の将来図に対する具体的なイメージが湧いてきて、職種や仕事の選択にも大きな影響を与えたいと思います。</p> <p>何か、そういったところにつながる活動を分科会の中に作っていただけたいなと</p>

	<p>思っています。</p>
近藤委員	<p>今お話を伺っていて、頭に電球が点いたんですが、中学校の職場体験があるのですが、毎回先生方が非常に苦勞して、職場を探さないといけない状況があります。学校単位でやっているの、保護者さんに聞いて、どこか受け入れ先はないですかと、昔から受け入れをしてくれている企業を探すということで、なかなか子どもたちの希望通りに職場体験ができないという話をお聞きしています。</p> <p>たとえば、医療機関と一口にいってもいろいろあるのですが、医師の関係の職場体験はできるのですが、介護の現場の体験は難しいなど、逆に看護師さんであればいけるが、ほかはできないから、全員、病院に行きなさいなど、そういう年もあったりします。</p> <p>ですが、このプラットフォームを活用すれば、例えば、ESDや職場体験を盛んに実施されている南高校さんが入会申込リストに入っていますが、ほかの高校も含め、プラットフォームの中で、企業とのマッチングもできるのではないのでしょうか。その中で「質の高い教育を」というSDGsの目標も達成できるし、教員の働き方改革にも一役買えるのではないかと思っています。</p> <p>また、企業と、将来就職してくれるかもしれない子どもたちをつなぐこともできるのではないかと思います。</p> <p>あと、新居浜高専の松田委員からもご発言がありましたが、卒業生の地元就職が少ないという話がありましたが、弊社は、今年度、新居浜高専の卒業生2名が就職してくれました。インターンで弊社に来てくれて、即、就職したいんですが、いつ試験を受けられますかという話をきいていただきました。また、全く新居浜市と関係のない、島根県の大学院の学生が、「太陽のあたるところで仕事をしたいのです」という理由で、いろいろと検索して、弊社を見つけてくれたということがありました。</p> <p>彼女は植物の研究をしていたので、全くソフトウェアとは関係がないのですが、職場の雰囲気に馴染んでくれています。そういう形で、学生がいろんな所から来て、発信してくれることが、さらに学生に伝わっていくのかなと思います。</p> <p>もしかすると、彼女も2か月で就職先を決めたかもしれないんですが、そういう面白いことを発信するのが、新居浜でもいいのかと思います。</p>
小林幹事長	<p>ありがとうございました。職場体験のお話がありましたが、プラットフォームに加盟している企業の中で、新居浜市のSDGs推進企業登録制度に登録された企業などへの職場体験という流れができればいいなと思います。</p> <p>改めて、中学生・高校生の視点で、ある企業のSDGsの取組を少し見てみよう、もしかすると、ここが足りないよねということに気づいてくれるかもしれません。</p> <p>それを体験で終わらせずに、お世話になった、自分たちが見た企業のSDGsについて、フィードバックすることになります。そうすると中学生・高校生の目線だから、正直だから、企業としては、外部評価を受けたような感じで、もしかしたら、事業の改善にもつながるアイデアになるかもしれません。それを受けて、さらに企業が、ありがとう！ということで、取組に反映したよということになると、自分が言ったことが、企業で活かされたということになると、自分のキャリアの延長線上にその企業が入ってくるかもしれません。そういったように、SDGsでも、なんでもいろいろと関連づけて、職場体験でも「SDGs型職場体験」などという呼び方で、教育委員会と連携して実施したらよいのではないのでしょうか。</p>
竹内委員	<p>この関連でご紹介したい取組があります。中小企業家同友会が「インタビューシップ」という取組をやっています。</p> <p>そこから、すごく勉強になったんですが、中学生でも、高校生でも、企業に行ってその取組を聞く、そのときに、会社の社長と話をするんです。</p>

	<p>そのインタビューをすることによって、その会社がどんな思いでできたのか、どんな苦勞を乗り越えてきたのかを聞くと、感動するわけです。</p> <p>本屋さんで働きたくて、実際に本屋さんで職場体験に行って、本を並べる仕事を経験や体験をしたとしても、それだけでは面白くないと思うのです。</p> <p>なぜ本屋さんになりたかったか、社長の話を聞くと、例えば、本から人生が広がるとか、そういう話を聞いて感激した子が、自分が言った会社の社長さんはこういう人で、この企業はこんな会社ですという話をしてくれるから、社員まで勉強になるというわけです。そういうウィンウィンのいい関係ができるんですね。この話を新居浜市の教育長にもお話していて、それはいいねと言っていた。この取組もひとつの分科会のテーマとして考えられると思っています。ありがとうございました。</p>
小林幹事長	SDGs インタビューシッププログラムという名前でしょうか。松田委員いかがでしょうか。
松田委員	<p>サステナブルなことを話しているのです、例えばこのカレンダー（会議資料のスケジュール）でも、年度区切りにするのは、予算の関係があるので仕方ないかもしれませんが、さきほど2030年を目標とした未来都市計画のご紹介もいただいたので、そういう意味で3月で終わりというのは、何となく参画されている企業さんも1年だけ頑張ってみようといった区切りになってしまいそうなので、もっとというと、この会議も第5回目くらいまで見えていて、当然、走りながら考える手法もありますけど、持続可能な意味のカレンダーを書いておかないと、作戦的にも、うまく企業さんの参画を呼び掛けるうえでもよろしくないのかなと思います。</p> <p>もう一つ、辛口で申し訳ないのですが、さきほど近藤委員の言われた、このプラットフォームの立ち上げ、入会を呼び掛けるチラシの書きぶりですが、要するに、企業様に参画していただくためには、新居浜市の本気度がどこかに見えないといけないと思います。</p> <p>新居浜市が本気でやろうとしているところに、多くの企業さんが乗っかって、協賛していただけるものだと思います。辛口で申し訳ないのですが、そういう勢いで、にぎやかにやっていければいいのかなと思いました。</p>
小林幹事長	ありがとうございました。広報のもうひとつの宿題としては、事務局の新居浜愛というかSDGs愛をもっと前面に出してほしい、というそういうご意見かと思えます。例えば、行政で働いている職員の写真を掲載するというのも面白いかもしれません。似顔絵のアプリなどを使ってもいいのではないのでしょうか。
小林幹事長	今までの皆さんのご意見を受けて、副幹事長の檀先生のご意見をいただければと思います。
檀副幹事長	<p>いろいろなアイデアが湧く場を作っていくことが大事だと思っています。</p> <p>そのためには、参加の敷居を低くすることが大事で、あと、新居浜市はいろいろな情報をホームページで発信すると思いますが、あわせてSNSも有効に活用されればと思います。</p> <p>ホームページを更新したタイミングで、あわせてSNSでも発信することが大切かなと思います。</p> <p>SNSを通じて、情報が広がっていくという、オープンな場があると、新規参入や活動の見える化というところにもつながっていくことが期待されると思いました。</p> <p>そうなれば、新居浜市プラットフォームが気軽に参入できる場だとみんなに認識されると思いました。もちろん、クローズな情報共有の場として、Facebook やLINEWORKSなども活用も検討してはと思いますが、そういうクローズドな場もありながらも、拡散、流通が期待できるオープンな場も活用できると面白い展開になるのかなと期待しております。</p>

小林幹事長	<p>ありがとうございます。松山市のSDG s 推進協議会としては、内向きはキントーンを活用して、外部向けには Instagram を活用しています。ただ、この Instagram は、それが活用できる人とできない人がいるので、難しい部分もあるのですが。いずれにしても、内向きの議論・情報共有を活発にするための媒体と、外向けの、これからプラットフォームに入って活動しようかなと考える人向けの媒体があればいいのかなと思います。</p> <p>今回の幹事会の様子についても、みんなが和気あいあいと議論している、楽しそうに笑いながら議論している写真などを発信できれば面白いと思います。</p> <p>新居浜市にあるハートネットワークさんなどと相談・連携しながら、効果的な情報発信・情報共有方法を検討していくのもいいのかなと思います。地域のケーブルテレビというのは、割と多くの人が見ているものです。ケーブルテレビという広報媒体は地元密着型なので、地域のいろいろな方に情報を届けるうえでは、非常に有効だと思います。</p>
小林幹事長	<p>それでは、そろそろ次の議題「その他」に移らせていただきたいのですが、皆さん、幹事会の役割やスケジュールの部分については、よろしいでしょうか。</p> <p>松田委員さんから頂きました、SDG s の目標年が2030年であることも踏まえ、もう少し長期的な視点での新居浜市SDG s 推進プラットフォームの活動スケジュールを提示していただくという点について、よろしく願いいたします。</p> <p>私の周りでは、すでにBEYOND2030という言い方をされていて、授業の科目も、「SDG s」ではなくて、「BEYOND SDG s」となっています。</p> <p>今年、SDG s は8年目で、ちょうど折り返し時点で、残り7年となりましたが、7年後の2030年では、何一つ課題が解決していないことは明白になってきています。</p> <p>もう少し先を見ながら、解決に向かう方向性・動きをどう作っていくのかということに力点を置いていく段階なのかなと思っています。</p> <p>そういった点で、もう少し中長期的な見通し、目標を示していただければいいのかなと思います。</p> <p>すでに作成している新居浜市の未来都市計画では、2030年での目標値なども示されているようです。</p>
小林幹事長	<p>それでは、次の議題「その他」に移りたいと思います。全体を通して、ご意見、ご質問はありますか。</p>
近藤委員	<p>1点だけ。資料を見ると、スケジュールが令和何年という表記になっていますが、SDG s は国際的な目標で、目標年も西暦2030年となっていますので、このプラットフォームの活動、資料についても、西暦で表記してはどうでしょうか。もしくは西暦と和暦を併記してはどうでしょうか。</p>
小林幹事長	<p>行政資料的にはどうしても和暦で表記しないといけないこともあると思いますが、外部資料としては、西暦表記、もしくは併記するというところでよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>そのように表記いたします。</p>
小林幹事長	<p>その他にございませんか。よろしいでしょうか。今回は、初回ということもあり、皆さんお集まりいただきましたが、この幹事会は、皆さんのアイデアがどんどん出てくるような場になるよう、そういった雰囲気を作っていきたいと思いますので、皆さんも思いついたことを書き留めておいていただくとありがたいです。</p> <p>あと、今後の幹事会の会議ですが、皆さんお忙しいと思いますので、場合によっては、書面持ち回り、オンラインなども活用しながら実施できればと思っています。</p>

小林幹事長	それでは、最後に事務局から連絡事項等があればお願いします。
事務局	<p>次の点について連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幹事会委員の母体の団体・企業等のプラットフォーム加入の依頼 ・プラットフォーム設置要綱の変更予定 (入会申込のあった団体等についての報告・承認) (入会団体の条件について・新居浜市内での活動計画の有無) ・幹事会としての活動に対する謝金について
小林幹事長	それでは、以上を持ちまして、本日の幹事会を終了いたします。委員の皆様には長時間にわたり、ありがとうございました。今後ともよろしく願います。
	(委員集合写真撮影)